



記念樹

発行者
医療法人 大分記念病院

大分市羽屋9組の5
TEL 097 - 543 - 5005



ホームページアドレス <http://oitamh.jp>

2019年5月15日 Vol.126

開院39年目を迎えた大分記念病院の現況と今後の展望

はじめに

大分記念病院は1980年12月3日、私たち4人の内科医師が自分達の手で真の「患者中心のグループプラクティス」を実践するために平等性と自律性に基づいて開設した病院であり、開院3年後に一般医療法人を設立しました。しかし、病院経営の持続的安定性を確保するために必須である後継者による病院の継承を容易にするために、最適なシステムの導入を模索する中で、2011年4月1日に大分県で初めての「基金拠出型医療法人」への転換を実現しました。その結果当院は私的病院から病院資産の持ち分を放棄したセミパブリックな病院となりました。

最近の病床再編成について

2018年9月1日に19床の地域包括ケア病床を35床の地域包括ケア病棟に転換した結果、現在、急性期疾患の診療に当たるDPC病床が49床、急性期後の疾患に対応する地域包括ケア病床が35床、及び慢性期疾患のケアを主体とする医療療養病床が34床で総病床数118床のケアミックス体制をとっています。

リハビリ部門の現況

当院のリハビリテーション科は1997年に初めて設置されましたが、病院の増改築に際して2002年に新リハビリセンターが完成しました。その後センターの規模は更に

拡大し、スタッフの数も増え、現在セラピスト26名(P.T12名、O.T12名、S.T2名)となりました。

なお、がんリハビリの有資格者は、医師5名、看護師5名、セラピスト15名で、呼吸器リハビリも呼吸器指導医1名、呼吸器専門医1名、呼吸療法士2名のスタッフにより常時行われています。

検診部門の現況

当院は白血病、骨髄腫、リンパ腫などの血液疾患を診療する専門病院として日本血液学会に認定されており、開院以来検査技師の教育と質の向上に努めて来ました。

現在当院の検査科は常勤の検査技師8名と事務員1名で病院の検査の95%を目前で処理しています。それ故当院では血液検査結果が正確、スピーディに報告されるので病気の有無を診断するのに非常に役立つています。また、検診システムの向上と共に産業界も6名に増え、検診の件数も増えつつあります。

さらに、検査機能の充実により、検診結果もより早く報告されるので特別の場合を除き病気の有無をその日の内に知ることが可能となり、受診者の方々にも喜ばれています。

高齢者施設関連事業について

2014年7月、当院のすぐ近くに開設し

た住宅型有料老人ホーム「はやの里」とデイサービス「森のコーラス」ももうすぐ5年目を迎えます。当院の老人ホームは大分記念病院に直結した施設であるため、入居者ひとりひとりに当院の医師が主治医となり、月1回訪問診療を行っています。急に発熱その他の症状が出現した場合はすぐ当院が連絡を受け、外来にて検査をしたり、必要があれば入院治療を行い、退院後老人ホームに戻るというシステムをとっています。入居者の要介護度の平均は3以上で、自宅での介護が困難な

透析患者さんも11名入居していますし、経管栄養や人工呼吸器を使用している人もいます。このように普通の介護のみでは充分なケアが出来ない入居者が増えていくため、最近訪問看護ステーションと訪問介護ステーションを新たに併設しました。老人ホームの介護士と訪問看護師及び訪問介護士が協力することでより安全で満足度の高い介護看護ケアが可能となり、全スタッフに「患者中心のチーム医療と介護」の理念が根付けばきつとすばらしい老人ホームになると信じています。

おわりに

2016年10月から救急告示病院として多くの救急患者を受け入れて来ました。当院かかりつけの患者さんだけでなく、新患の方からも大変喜ばれています。今後ともさらに地域医療に貢献できるよう、病院スタッフ全員で頑張りたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。

(豊田)

「嚥嚥と肺炎」

日々を暮らしていて食べ物や飲み物を摂取しているときにむせることがあるかと思えます。今回は嚥嚥と肺炎について述べていきたいと思います。

元気な方であれば、食事摂取に際してむせ混む(以下嚥嚥とします)とその後咳き込んで、特にその後のトラブルなく過ごされる方が多いかと思われれます。ただ、高齢の方や基礎疾患をお持ちの方はそうはいきません。嚥嚥した後に肺炎を起してしまうことがあります。その肺炎を特に誤嚥性肺炎と呼びます。

調査によると、日本人の死因としての肺炎は、悪性新生物(癌)、心疾患、脳血管疾患について第4位とされており、肺炎の原因の多くが嚥嚥性肺炎とされています。

では、どうして嚥嚥をしてしまうのか。これは人類が二足歩行を始めた時から宿命づけられているといわれています。二足歩行を始めたことで、人類は声を手にいれました。こ

ろがこのことは食べ物(の通り道)咽頭(食道)と空気の通り道(喉頭/気管)が共通した入り口を持つてしまつことにつながりました。それ故、他の動物と比較しても嚥嚥を起しやすいようになってしまったといわれています。

また、嚥嚥するものは飲食物にとどまりません。人間、生きている限り唾液や鼻水などの分泌は絶えず行われており、通常はこういった分泌物も食べ物(の通り道)に進むはずなのです。しかし加齢や疾病で飲み込む力が弱つてしまつとこれらも食道に入り込んでしまい(不顕性嚥嚥といえます)肺炎の原因となつてしまいます。明らかな飲食物の嚥嚥による肺炎よりむしろこのような不顕性嚥嚥の方が頻度が高い印象があります。

では、生活ではどのようなことに注意すべきなのでしょう？

まず、飲食物の摂取においては、よくかむ、集中して摂取するなどといったことが重要になります。またどうしてもむせが出てしまう場合や肺炎を繰り返す経歴がある場合は

医師などの専門家に相談しましょう。場合によっては病院で嚥下機能の評価が必要となることもあります。専門家と相談の上、食事の形態や水分にとろみをつけるなどのアドバイスをもらい、安全に食事ができるようにすることが大事です。

また不顕性嚥嚥についてはお口のケア(口腔ケア)が重要になります。不顕性嚥嚥で気管内に落ち込む唾液にはたくさんの細菌が含まれています。不顕性嚥嚥自体を予防することはとても難しいので、せめて唾液に含まれる細菌の量を減らせるようにお口をきれいに保つことが重要です。歯磨きをはじめとした口腔ケアについてはどうしても自己流になりがちです。気になる方はかかりつけの歯科に相談し、お口の中の評価とともに口腔ケアの指導を受けるとういかと考えます。

以上、今回は嚥嚥と肺炎について述べさせていただきました。最後に皆様が無永く元気に、楽しく食事が続けられるよう願っております。

(向井 豊)



がん患者さんやそのご家族、介護援助者の方々の交流会です。一般の方もご自由にご参加ください。当院の1階多目的ホールで開催しています。会費は不要です。

リレー・フォー・ライフ大分サロンの ご案内

毎月第2日曜日
午前10:00~12:00

主催

リレー・フォー・ライフ・ジャパン大分

大分記念病院 3月定例研修会

「動画で学ぶ認知症の診断と治療」

講師 大分大学医学部神経内科
木村 成志 先生



3月1日(金)に開催された定例研修会は、大分大学医学部 神経内科の木村 成志 先生による「動画で学ぶ認知症の診断・治療」と題した講演でした。以下は木村先生執筆の抄録です。

認知症の患者数は増加傾向にあり、2025年には700万人を超えると推定されています。さらに、認知症の前段階である軽度認知障害は約400万人と推計されています。

① 認知症の診断

認知症とは、一度正常に発達した認知機能が慢性あるいは進行性の脳疾患によって持続的に低下し、社会生活や日常生活に支障をきたすようになった状態です。認知症と区別すべき病態としてせん妄とうつ状態があります。せん妄は意識障害の一種であり、身体疾患、薬剤、環境の変化が誘因となります。うつ状態は、思考の緩慢や注意力・集中力・判断力の低下を認め、食欲低下や睡眠障害を伴うことがあります。

② 治療可能な認知症

治療可能な認知症は早期に治療することで改善する症例があるため、見逃してはいけない疾患です。原因疾患としては、感染性や免疫性の髄膜脳炎、甲状腺機能異常、ビタミン欠乏・肝性脳症などの代謝性疾患、正常圧水頭症などの脳外科疾患、てんかん等があり、症状の進行が比較的早いことが特徴です。

③ 認知症を来す主な疾患

日常診療において認知症の早期かつ正確な診断は、治療やケアの方針を決定する上できわめて重要です。認知症で最も頻度の高い疾患がアルツハイマー型認知症です。

【アルツハイマー型認知症】

近時記憶障害による取り繕いや振り返り行為が特徴的です。

【血管性認知症】

意欲低下、うつ状態、発話量や活動量の減少がみられます。また、球麻痺、筋力低下、歩行障害などの神経症候を伴います。廃用症候群の予防が大切です。

【レビー小体型認知症】

具体的な幻視とレム期睡眠行動異常はよく知られていますが、治療とケアにおいてはパーキンソン症状や便秘・排尿障害・起立性低血圧等の自律神経症状への対応が大切です。

【前頭側頭葉変性症】

「脱抑制」「無為・無関心」「常同行動」が見られる前頭側頭型認知症だけでなく、言葉のしゃべり難さや言葉の意味が理解できないことを主体とする進行性非流暢性失語や意味性認知症があります。言語症状を主体とする症例では言語リハビリも効果的だと思います。

④ 認知症の治療

アルツハイマー病の治療には、薬物療法と非薬物療法があります。薬物療法には、神経系のアセチルコリン濃度を高めるコリンエステラーゼ阻害薬とNMDA受容体拮抗薬があります。早期から治療を開始することが認知機能の長期維持や行動心理症状の軽減において重要です。

⑤ 今後の認知症対策

少子高齢化や認知症高齢者の増加が社会的問題となっているなか、高齢者が可能な限り住み慣れた場所で自分らしく暮らし続けるためには、認知症の予防、早期診断・早期治療、認知症の人とその家族が安心して暮らし続ける街づくりを実現することが大切です。そのためには、多職種連携体制の構築が不可欠であり、①関係者間で十分な話し合い、知識や目的を共有する、②顔の見える関係を築き、自由な意見交換を可能とする、③取り組みを継続して発展させることが重要であると思います。





作りま専科

あさりとアスパラの混ぜご飯

<材料> 4人分

- あさり(砂抜きしたもの).....300g
- 酒.....100cc
- グリーンアスパラガス.....3~4本
- ご飯(温かいもの).....650g(2合分)
- あさりの蒸し汁.....100cc
- みりん.....大さじ1
- 薄口醤油.....小さじ2
- 砂糖.....小さじ1
- 粉山椒.....少々

作り方

- ① フライパンによく洗ったあさりと酒を入れ、ふたをして中火にかける。
- ② あさりの口がすべて開いたら火を止めて取り出し、殻から身を外す。
- ③ 蒸し汁は紙タオルを敷いたざるでこす。
- ④ アスパラガスはピーラーで根元の堅い部分の皮をむく。2~4つ割にし、3cmの長さに切る。
- ⑤ フライパンにAを入れて中火で煮立たせ、アスパラガスを加えて1分間ほど煮たら、一度取り出す。
- ⑥ 残った煮汁を半量になるまで煮詰め、あさりの身とアスパラガスを加え、水分がなくなるまで煮て味をからめる。
- ⑦ ボウルにご飯を入れ、⑥の具材を煮汁ごと加え、粉山椒をふり、ご飯になじむように混ぜる。

新入職員紹介

1月から4月に入社した新入職員27名をご紹介します。どうぞよろしくお願い致します。



土田 沙矢香 (看護部)

1日でも早く仕事を覚え患者さんの心に寄り添いその人らしい生活ができる看護をしていきたいです。



堀 律子 (看護部)

介護の仕事は初めてですが、1日でも早く仕事に慣れ、患者さんの居心地の良い環境を作れるよう頑張りますのでよろしくお願い致します。



柴田 美耶 (看護部)

とにかく元気で明るく、優しさのある介護を提供できるよう精一杯頑張りたいと思います!



衛藤 志保 (看護部)

早く仕事に慣れて、患者さんやスタッフからも信頼される看護師になれるよう、日々笑顔で頑張ります。よろしくお願い致します。



高橋 香帆 (看護部)

笑顔を忘れず、患者さんとご家族に寄り添う看護が出来るよう努力していきたいと思っています。



小野 楓 (看護部)

知識、技術をしっかり身に付け、一人前の看護師になれるよう頑張りたいです。



西村 里菜 (看護部)

介護福祉士として働かせていただくにあたって、患者さんに信頼されるような職員になれるよう努めます。



猪原 仁美 (看護部)

患者さん1人1人に合った看護を行っていきたくです。



坂本 千佳 (看護部)

内科疾患の病態を理解し、患者さん一人一人に合った看護ケアができるよう努めてたくさんの知識を身につけていきたいです。



得丸 周吾 (薬剤科)

自分の未熟さを理解し、多くの事を学び、吸収し、早く一人前となることで薬剤科の力になりたいです。



上久保 厚太郎 (放射線科)

3ヶ月業務を確実に遂行し、1年間の内に自身で行える業務と知識を増やしていきたいです。



姫野 未和 (医療事務課)

本院と患者さんを繋ぐ窓口として、きちんとした対応を心がけていきたいと思ひます。



工藤 あかね (医療事務課)

少しでも早く職場の雰囲気と仕事に慣れ、社会に貢献できるよう先輩方と協力しながら頑張っていきます。



星野 佳代 (診療情報管理室)

常に感謝の気持ちを持ち、思いやりの気持ちを持って一生懸命頑張ります。



大津 晴可 (診療情報管理室)

学校で学んだことを生かしつつ、新しい知識を増やし、一人前のスタッフになれるよう頑張ります。



辰本 康介 (情報システム管理課)

できるだけ早く慣れていけるよう頑張ります。宜しくお願いします。



松田 未来 (栄養科)

早く仕事を覚え、作業動線などを考えながら行動出来るように頑張ります。



ぬるゆ 奴留湯 さや (栄養科)

何事にも臨機応変に対応できるように頑張ります。



藤田 雅子 (住宅型有料老人ホーム はやの里)

いち早く業務を覚え、笑顔で忘れず頑張っていきたいと思ひます。



菅原 理恵子 (はやの里 訪問看護ステーション)

訪問看護は初めてですが頑張りたいと思っています。よろしくお願い致します。



渡部 久美子 (はやの里 訪問看護ステーション)

看護の経験を生かし、利用者さんに寄り添う看護をしていきたいと思っています。よろしくお願い致します。



横田 ゆきの (はやの里 訪問看護ステーション)

技術や知識を身につけ、利用者さんの心に寄り添ったサービスが提供できるようにがんばりたいと思ひます。



首藤 洋美 (はやの里 訪問看護ステーション)

笑顔で明るく利用者さんに慕われる人になれる様努力をしていきたいです。



森 悦子 (はやの里 訪問看護ステーション)

入居者の気持ちになり、気持ちの良い生活が送れるよう支援して行きたいと思ひます。



伊藤 歩夢 (はやの里 訪問看護ステーション)

常に笑顔忘れず利用者の方々に信頼されるような介護士を目指します。



後藤 孝子 (はやの里 訪問看護ステーション)

入居者のみなさんと楽しい時間が過ごせるように笑顔でがんばります。



湯田 明依利 (はやの里 訪問看護ステーション)

入居者の方々に少しでも笑顔の時間がふえるよう介護に努めたいと思ひます。

編集後記



新緑の色増す季節。平成から令和へ。新しい時代の幕開けとともにお届けする記念樹第126号です。

今回の巻頭言では、開院39年目を迎えた本院の現状と今後の展望についてみなさまにお伝えしています。39年という長い歩みの中、移りゆく時代とともにその時、そのタイミングで求められる最善の医療を目指し、変化し続けてまいりました。

この4月には多くの新人さんたちを迎え入れ、よりパワーアップです。新たな力が加わり、変化が進化となるように、これからも患者さんのためにより良い病院作りを目指していきたいものです。(図書室 河野)

アートのボランティア

アートのボランティアの方々のご協力により、病院内に絵画や写真作品を常時展示しています。皆様、ご来院の際はどうぞ鑑賞ください。



竹田津 文俊 様 寄贈 銅版画「羽衣」佐藤 節士 作

医療法人 大分記念病院

基本理念

1. 私達は法人各施設・各部門が協力して、患者中心のチーム医療と利用者中心のチームケアを実践することにより患者及び利用者の満足度と幸福に貢献します。
2. 私達は常に診療レベルの向上を図ると共に地域住民の皆様に安全で良質な医療とケアを提供します。
3. 私達は地域の医療、福祉機関との緊密な連携を保ちながら一般急性期医療および地域包括ケアを実践します。

基本方針

1. 専門的医療レベルと医のアートを兼ね備えた全職員による全人的医療を患者の皆様へ提供します。
2. 患者及び利用者の皆様の立場に立って、信頼と安全の確保に全力を尽くします。
3. 患者及び利用者の皆様の満足度を高めるべく、心のこもった医療と介護サービスに努めます。

